

2021 年度英米文学英語学専修 卒業論文題目一覧

文 18-0005	安 居 ひかる	前置詞 <i>against</i> の多義構造について
文 18-0021	安 東 真 由	『真夏の夜の夢』における新しい妖精像の創出
文 18-0027	池 田 七 菜	マンスフィールド短編小説論—階級問題を中心に—
文 18-0039	市 川 みずき	The Use of Plain English in Japanese Education
文 18-0048	伊 藤 湧 人	『フランケンシュタイン』への精神分析的アプローチ
文 18-0089	江 崎 桃 加	動詞不変化詞構文における <i>Burn up</i> と <i>Burn down</i> の分析
文 18-0090	枝 松 結 花	日本人英語学習者のリスニング能力間の相関関係—音素・ストレス・文の聞き取り能力を焦点に—
文 18-0093	榎 本 万梨華	A Comparison among The Order of Acquiring English and Japanese, and English Textbooks: Searching for the Best English Textbook for Japanese People
文 18-0094	江 本 琴 美	エミリ・ブロンテ作品における風と魂の関係
文 18-0113	大 西 翔 太	ウォルト・ホイットマンの死生観——平等な視点の理由を死生観から見つける——
文 18-0116	大 西 萌 々	エドガー・アラン・ポー研究——象徴主義における美観と生死——
文 18-0120	大 橋 樹	ことばの暴力はどこからか—法律の実例から—
文 18-0144	小 熊 美 帆	『モナリザ・スマイル』における人物分析——学生たちの変化、自己実現へと向かうキャサリン、ジゼルとジョーンの役割——
文 18-0146	尾 住 夕 佳	Refusal expression in Japanese and English
文 18-0147	尾 関 梨 花	フィギュアスケートの実況中継の日英語比較
文 18-0148	小 竹 由 珠	『チョコレート工場の秘密』における人物像および原作と映画の比較
文 18-0158	表 西 貴 司	日本語母語話者における有声阻害音を含む英単語の持つネガティブなイメージの検証
文 18-0168	檜 原 真 未	『クリスマス・キャロル』研究—スクルージの回心とディケンズの物語に込めた思い—
文 18-0184	加 納 尚 真	How different are greetings of Japanese, English and Chinese from what is written in language textbooks?
文 18-0186	嘉 村 まりあ	『LIFE!/ライフ』——ウォルターの成長による空想癖からの脱却——
文 18-0195	川 野 有 咲	<i>LA LA LAND</i> における表現分析——夢追い人たちの理想と現実——
文 18-0199	川 村 航 平	<i>Rear Window</i> に描かれた映画観客——その批評史と女性観客の描かれ方について——
文 18-0217	樹 下 未 来	『グリーン・ブック』のトニーとドクの人物分析——1960 年代初頭における人種差別描写、人物設定、苦悩と生まれ変わり——
文 18-0219	木 村 明優葉	マンスフィールド短編小説試論
文 18-0227	楠 木 遥	<i>Little Women</i> で描かれる四姉妹たち——映画の変遷と四姉妹の描かれ方——
文 18-0244	桑 原 涼 花	絵本の中の LGBTQ+—絵本の持つ可能性—

- 文 18-0245 小 池 玲 奈 Japanese Education from the Perspective of Automatization
- 文 18-0252 小 西 果 那 心理的述語の個体レベルと事態レベルの分類
- 文 18-0260 小 平 菜 々 A comparison of women's apologies for Japanese and English speakers
- 文 18-0267 近 藤 実 優 テニスと死生観
- 文 18-0274 斎 藤 菜 々 *come* と *go* の評価性—STATES ARE LOCATIONS に基づいて—
- 文 18-0280 坂 井 美 月 『影との闘い：ゲド戦記 I』における影の意味
- 文 18-0285 坂 元 千 紘 A comparative study of television commercials in Japan, China, US, Mexico, and Korea
- 文 18-0292 佐 古 楓 クリスティーナ・ロセッティにおける「愛」と「死」
- 文 18-0294 佐 々 茉 由 *Matilda*——和訳の比較と分析——
- 文 18-0296 佐々木 千 里 マンスフィールド短編小説論
- 文 18-0299 佐 藤 彩 美 *sweet* の多義—『甘い』は快樂—
- 文 18-0348 鈴 木 彩 乃 The differences between the English Preposition and Japanese *Joshi* — Comparison using Literary works
- 文 18-0373 高 橋 亜 実 マンスフィールド短編小説論
- 文 18-0419 谷 田 涼 葉 複合語の意味関係について—「N₁+N₂」型の複合語の分類—
- 文 18-0422 田 淵 功 暉 「かわいい」は神聖か？英語における両唇音[P]の音象徴
- 文 18-0428 千代島 陽 和 『Demolition』における“再生”——メタファー、グルーミング、タイトル——
- 文 18-0436 恒 光 遥 華 『チョコレート工場の秘密』における人物像
- 文 18-0438 寺 井 颯 ウィリアム・ブレイクの詩から感じられる「優しさ」についての考察
- 文 18-0447 當 麻 元 夢 副詞の用法が可能な形容詞—汎用コーパスによるコロケーション検索から—
- 文 18-0477 中別府 瑞 希 恋愛における二者択一の選択のための重要な要素について—直観に頼らず冷静に判断するための客観的事実—
- 文 18-0494 中 山 拓 紀 レイ・ブラッドベリの「沈黙の街」—SF 小説の和訳比較と分析—
- 文 18-0510 西 田 優 菜 『アイ・アム・サム』における人物の変化——人物・モチーフ・色使いに焦点を当てて——
- 文 18-0532 野 村 亜 未 Drama Education in English classes in Japan
- 文 18-0547 浜 田 萌 由 英語母語話者の男女の名前における共鳴音と阻害音の検証
- 文 18-0560 東 山 有 里 *Alice's Adventures in Wonderland* 翻訳比較
- 文 18-0569 平 井 歩乃果 『偉大なるギャツビー』論
- 文 18-0571 平 田 真 生 Analysis of a Comparison of My Translation and Two Professional Translations: *Charlie and the Chocolate Factory* by Roald Dahl
- 文 18-0577 廣 岡 志 歩 『マンチェスター・バイ・ザ・シー』にみる人物分析——リーの変化と主要人物の役割—
- 文 18-0581 福 田 有 紗 『ショーシャンクの空に』について——強さと優しさをもつ主人公アンディの生き方と周りの人物たちの生き方——

- 文 18-0600 藤 本 在 投獄期の作品から読み解くオスカー・ワイルドの葛藤——『レディン
グ監獄のバラッド』の分析による発見——
- 文 18-0603 藤 本 優 花 『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』にみる主人公の成長
——見えていない母親、相補的な関係、他者理解——
- 文 18-0613 堀 井 菜々子 アーネスト・ヘミングウェイの短編小説における様々な技法について
- 文 18-0615 前 岡 篤 輝 ナサニエル・ホーソーン「ヤング・グッドマン・ブラウン」研究—
善と悪の二項対立とピューリタニズムの観点から—
- 文 18-0620 真 木 ひかる Translation and Analysis of the book—*The Saga of DARREN SHAN* by
Darren Shan—
- 文 18-0629 松 下 愛 佳 ネーミングの売上への影響とその共通点—海外の菓子の例から—
- 文 18-0632 松 田 望 『ドリアン・グレイの肖像』における善悪と二重人格
- 文 18-0645 水 谷 光 アーネスト・ヘミングウェイの合理的な自殺の可能性
- 文 18-0649 溝 杭 奏 子 『ジェイン・エア』とフェミニズム—ジェイン・エアと 5 つの場所を
中心に—
- 文 18-0660 宮 内 有里菜 F.スコット・フィッツジェラルドの「バビロンに帰る」—和訳の比較
と分析—
- 文 18-0669 三 好 亜 実 The importance of non-verbal communication—The similarities
and differences in interpretation of body language
- 文 18-0674 村 山 彩 実 詩における薔薇、海、火のそれぞれの役割
- 文 18-0681 森 岡 大 貴 J. R. R. トールキン研究—『ホビットの冒険』におけるく妖精物語>の
カー
- 文 18-0695 八 島 万葉香 Comparison of subtitles in Japanese and American movie—Which has more
subtitles with different meaning from original texts?
- 文 18-0713 山 内 駿 大統領のスピーチのメタファー—民主党と共和党のスピーチ比較—
- 文 18-0721 山 崎 陽 夏 Comparison of English acquisition environment between Japan and South
Korea
- 文 18-0727 山 下 栞 Analysis and Comparison of Japanese Translated Text: *Breakfast at Tiffany's*
by Truman Capote
- 文 18-0730 山 下 真 璃 英文法における困難についての研究
- 文 18-0731 山 田 花 歩 English and Japanese Women's Language: Changes due to the transition of
the times
- 文 18-0732 山 田 航 大 ロバート・バーンズ——バーンズの生涯が作品に与えた影響——
- 文 18-0733 山 田 奈津実 日本女性誌比較—ジェンダー・ステレオタイプに着目して—
- 文 18-0739 山 中 彰 也 ワーズワス・ウィリアム研究——現代へと続く彼の作品におけるエコ
ロジカル思想——
- 文 18-0758 吉 田 明日香 『遙かなる大地へ』にみる人物の変化——ジョセフの成長と反復され
るモチーフ——
- 文 18-0763 吉 野 春 菜 『ライ麦畑でつかまえて』について

文 18-0784	楊 雪 純	現実と幻の闘争——「レイミア」を巡り——
文 20-3001	有 澤 魁 人	アメリカの記事にみられる <i>IMMIGRATION AS MOVEING WATER</i> メタ ファーの用法—イギリスとの比較—
文 17-0007	赤 澤 智 哉	English in Croatia and Japan: Focus on English Education
文 17-0210	鎌 田 響 平	Comparison and Analysis of <i>Murder on the Orient Express</i> by Agatha Christie
文 17-0306	小 寺 亮 輔	<i>The Great Gatsby</i> 論—主要人物の人物分析を中心に—
文 17-0588	根 津 麻里奈	The change of Disney Princess—How they behave and find their happiness
文 17-0720	三 木 いづみ	『The Giver』における翻訳と分析

2020 年 英米文学英語学会会計報告

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	2,380,903 円	「英米文学英語學論集」第 9 号印刷代	198,000 円
特別会費	70,000 円	郵送料	854 円
学生会費	210,000 円	文具	498 円
利息	18 円	人件費	20,000 円
		雑費（振込料など）	440 円
		次期繰越金	2,441,129 円
合 計	2,660,921 円		2,660,921 円

2020 年度英米文学英語学会会計報告について監査を行った結果、適正なものであることが認められますのでその旨証明いたします。

執筆者紹介

秋 元 秀 紀 （本学教授）

Richard Donovan （本学准教授）

査読編集委員会

秋 元 秀 紀 （本学教授）

Fred E. Anderson （本学教授）

*高 橋 美 帆 （本学教授）

干 井 洋 一 （本学教授）

Richard Donovan （本学准教授）

*編集代表

【編 集 後 記】

新型コロナの蔓延が続く、この 2 年間、学会と卒業論文中間発表会が開催できていない。今回の論集はそうした状況下での、学生たちの努力の結晶である。またアンダーソン先生の退職記念号であり、最優秀論文は教え子から恩師へのはなむけとなった。編集作業は例年のように、西田佐智子さんにお世話になった。この場を借りて御礼を申し上げたい。

『英米文学英語学論集』投稿規定

1 投稿資格

本会の会員であること。その他、評議員会で適当と認められた者。

2 投稿論文及び翻訳

投稿論文は、未発表の学術論文であること。口頭発表を基にした論文は、その旨を明記すること。論文の長さは、和文の場合四〇〇字詰め原稿用紙三五枚程度、英文の場合七〇〇語程度。なお、投稿原稿は返却しない。

翻訳は本邦初訳であり、かつ著作権上の問題が発生せず、研究上の意義が認められるものに限る。

3 投稿の採否

投稿原稿の採否は、査読編集委員会あるいは同委員会が委嘱する査読者の評価に基づいて、査読編集委員会が決定する。

4 書式上の注意

i 注は本文の末尾にまとめる。

ii 注のナンバ―は肩付き、数字はアラビア数字（かっこなどで枠付けしない）を用いる。

iii その他、書式の細部については次のいずれかの規定に従うこと。

① *MLA Handbook for Writers of Research Papers* (Fifth Edition)

② 『MLA英語論文の手引』（第5版）（北星堂）

③ 日本英語学会機関誌 *English Linguistics* 投稿規定

④ *The Chicago Manual of style* (Fifteenth Edition)

⑤ *A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations*

⑥ *APA (American Psychological Association) Style*

iv 日本語による論文には英文タイトルを付すこと。

5 原稿締め切り

原稿の締め切りを原則として毎年12月末とし、翌年3月までに刊行するものとする。

6 電子化による公開

投稿した論文等が本論集に掲載された場合、投稿者はその論文等が関西大学学術レポジトリに登録されることを許諾したものとする。ただし投稿者本人の事前の申し出により登録を辞退することができる。

関西大学英米文学英語学会会則

第一条

本会は関西大学英米文学英語学会と称しその事務局を関西大学文学部総合人文科英米文学英語学専修合同研究室に置く。

第二条

本会は英語学・英米文学の研究の促進と研究成果発表を目的とする。
本会は第二条の目的を達成するために次の事業を行なう。

第三条

一、機関誌『英米文学英語学論集』の刊行。

第四条

二、その他、大会、総会、談話会、講演会など、本会が必要と認めたこと。
本会は次の者をもって会員とする。

一、本学文学部総合人文文学部英米文学英語学専修の専任教員。

二、本学文学部総合人文文学部英米文学英語学専修及び同大学院文学研究科英米文学英語学専修の学生。

三、右の卒業生及び修了生であつて本会に入会を認められた者。

四、本学文学部英文学科（旧）の在職経験者中に入会希望者。

五、本学の名誉教授その他評議員が推薦した者で入会を希望する者。

第五条

本会に次の役員をおく。

一、会長 会長（一名）は評議員の互選によりこれを選出する。

二、副会長 副会長（一名）は会長が指名するものとする。

三、評議員 第四条第一項の会員が評議員の責務を負うものとする。

四、委員 委員若干名は評議委員会で決定する。委員は編集・会計・会計監査及び広報を分担する。

役員の任期は二年とし、再任を妨げない。

会費は第四条第一項に該当する者は年会費一万円を納入する。第四条第二項に該当する者は千円を納入する。その他は年会費三千円を納入する。

会員は機関誌の配布を受けるとともに、これに執筆寄稿することができる。

この会則の変更は評議員の議決による。

第八条

（会則改正 二〇一八年二月十四日）